

沙漠の入口

十二日午後二時五十分、嘉峪關を發し、雙井子を経て行程約十三里、回々堡(一名東河堡)に到る。此處は人家約三十、舉民回教を奉ず。兵十餘名を屯す。産する所の物は、豆類、年額約千斤、鴉片又一千兩餘、其他南山より松樹を出す飲料は河水にして好良なり。地形は比高約百米突、傾斜急なる黒山脈其の北に、比高約二百米突、傾斜同じく急なる南山脈南に在りて一樹見えす一耕地なく、土民の言に依れば、南山の陽には松樹多しと。從來千篇一律の行程は、益々乾燥無味ならんとす蓋し其の前途に横はれる大沙漠の入口にして村落あれども其間遠く、住民愈々稀薄と爲りて其沙漠の地に入りては、如何に索寞否寧ろ慘澹たるの光景なるかは今更想像するに餘り有り。

十三日午後二時三十分回々堡を發し、火燒溝ホワシヤオコウを経て行程約十七里赤金峽チーチンシヤンに到る。其西に草湖あり、周圍四里餘、水少くして、多く鹽を産す。年額約二萬斤と稱す。

赤金峽は人家約五十、兵卒十名を屯す、一人月俸僅に銀八錢五(我約壹圓餘)と。此地には其量多からざるも、南山の麓に産する五穀、又南方赤金より出す砂金を以て名あり。砂金は、咸豐年間盛に産出せし由にて、爲めに赤金の名を得たるも、今は頗る微

赤金峽の砂金